				令和 6	年度(2024 年	度) 年間授業	計画表					
学	牟年	3	コース	特進S	選択形態	必修	科目	文学国語	単位		2	
学習	習目標		中心に文学的文 文章を読み、そ			-	:るようにする	0				
			章に触れ,もの めの漢字の意味						o			
使用	教科書	文学国語(数研出版)	副教材	適宜演習用補助プリント 予定時間数 70						70	
				I	単元と内容							
1 3	学期	オリエンテ	ーション									
	文学的な文章を読む ・心情を中心に読解					想の読解方法; 題に迫り,自i			思考力を高め	る。		
2 3	学期	・小説・随	想を読む		・場面の展	開の仕方や構成	成の特徴を理解	解させる。				
		・まとめた	り、感想を書い	ヽたりす	• 登場人物	の心情の変化	を把握させる。					
	・まとめたり、感想を書いたりする。			・本文のタイトルの意味するところを理解できるようにする。								
		・漢字・慣りぶ。	用句・慣用表現	などを学	・小説や随想を読むうえで大切になる語彙知識を習得させる。							
		・和歌や詩の	の読解		・作品の主題や鑑賞する心を学び、自己の生き方に置き換えて考えを深めさせる。							
		大学入学共社 選抜過去問治	通テストや私立 寅習	大学一般	大学入試に向けた実践的な問題演習を通して、解答力の養成をする。							
3 =	学期											
					評	·価						
		評価の観点			言平	価の趣旨			評価対	象		
		#1 III ** A32/**						1 学期	l末 2 学期	末	学年末	
1		知識・技	能			めの音声・文 解し、知識を		0	0		0	
2	思	考力・判断力	—— — · 表現力	の主題を読 自分の考え	心とした読解を意識し、心情図をはじめ物語 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○							

3	③ 主体的に学びに向かう態度			i文化に対する関心を深め、国語を尊重し 図り、進んで表現したり理解したりしよ を深めたり進展させたりしながら、目的 な文を的確に読み取ったり、読書に親し	: j	0	0
		•		2		3	
評化	西方法	レポート 3 相互評価	0% 0% 0% 0%	定期考査 40% 口頭試問 30% 各種発表・まとめ 30%	口頭試 各種発表・		% 70 %

				令和 6	年度(2024 年)	度) 年間授業	業計画表					
学年	Ŧ.	3	コース	特進S	選択形態	必修	科目	論理国語	単位	2		
学習目	目標	・論理的なる		の構造を理解	解し、自身で活			c +				
					ジ方・考え方を 吾彙や文法,構				0			
使用教	科書	論理国語(数	数研出版)	副教材	適宜演習用補助プリント 予定時間数 70							
					単元と内容							
1 学	期	オリエンテー	ーション									
論理的な文章を読む ・対比関係 ・類似・イコール関係 ・因果関係					筆者の意見	見や主張を正	確に理解させ		マっていく。 見を踏まえたう ほの在り方を論	, ,		
2 学	期	論理関係を	把握して文章を	と読む	る。			の主張を的確に	こまとめられる	ようにす		
		大学入学共说 抜対策	通テスト・私立	大一般選	一般選抜の力を養うための問題演習を通じて解答力を養う。							
		課題型小論	文の本文を理解	¥する	3 入試本番を見据えた読解力を養成する。							
					基本となる課題型小論文の本文読解に励む。 国語表現と連動し、一つの課題型小論文を論理国語で論理的な読解を行い、国 語表現で小論文として書いてみる。							
3 学	期											
					評	価						
		評価の観点			評価の趣旨				評価対象			
		11 ID 12 DOM						1 学期	末 2 学期末	学年末		
1		知識・技	能		ない できなどを理			\sim	0	0		
2	思	考力・判断力	・表現力	識しながら 自分の考え	を読み取るため、3つの論理関係を常に意 文章を読んでいる。 をまとめたり深めたりして、目的や場面に 変を立てて話したり的確に聞き取ったりす				0	0		
3	主体	*的に学びに向	可かう態度	その向上を とする。 自分の考え 応じて近代	手文化に対する と図り,進んで こを深めたり進 よ以降の様々な んだりする。	0	0					

	0	0	3		
評価方法	定期考査 40% レポート 30% 相互評価 10% 各種提出 20%	定期考査 40% 口頭試問 30% 各種発表・まとめ 30%	口頭試問 30% 各種発表・まとめ 70%		

				令和6年	=度(2024 年	度) 年間授業						
学	学年	3	コース	特進 S (文系)	選択形態	選択	科目	国語表現	単位	3		
学習	習目標	選抜 「論理	文を書くための や学校推薦型選 里的」に書ける D際の基本的な	抜に対応でき ような力を向	るような文章 上させる。	能力を身に付	けさせる。特					
使用	教科書	国語表現(大修館書店)	副教材	論理エンジン 0S4・5、朝日新聞時事ワークシート 予定時間数 105							
					単元と内容							
		オリエンテ	ーション									
1 4	●論理エンジン ●小論文の基礎知識 ●慣用句・ことわざ・類義語・対義語 小論文・作文を書く ●志望理由書・自己推薦書を書く					的な文章の構 や小論文を書 力を高め、文字程度の小論コ は身近な問題 進路に応じたこ	くための基本 章を書く基礎 文,作文を書 [、] などにし,構	ルール。構成 知識を身に付 くことで,入記 成まで考えて	を理解する。 ける。 式への対策とす 書かせる。	⁻ る。		
		●面接試験	対策			に必要な知識 ゼンテーショ						
2 -	学期	●小論文を	書く		 プレゼンテーションのための話し方やスライド作成を学ぶ。 600 字程度の小論文を書くことで、入試への対策とする。 課題は身近な問題などにし、構成まで考えて書かせる。 論理国語と連動し、一つの課題型小論文を論理国語で論理的な読解を行い、国語表現で小論文として書いてみる。 							
		●志望理由	書・自己推薦書	を書く	● 希望進路に応じた志望理由書・自己推薦書を書けるようになる。							
		●社会問題。	社会問題基礎知識の向上			● 小論文や面接での社会知識問題に対応するため、朝日新聞時事ワーク シートを用いて、様々な世の中の出来事を知り、自身の考えを持てる ようにする。						
Q <i>i</i>	学期											
	1.241											
					評	価						
		評価の観点			評価の趣旨				評価対象	<u> </u>		
	1	H I IIM : > INGS!!!			н	IM > XE H		1 学期	末 2 学期末	学年末		
1		知識・技	能	表現と理角		ため,漢字・i ることができる		0	0	0		
2	思	田老力・判断力・表現力 て、 高			とめたり深めたりして、目的や場面に応じ 話す・聞く・書くことができている。 を的確に探し、相手や目的に応じて適切に 表現することができる。				0	0		
3	主体	本的に学びに「	句かう態度	自ら進んで		:もに,伝え合 ぼうとしている	-	iな O	0	0		
			1			2			3			
評価	西方法	レ相	ポート 3 互評価 1	0% 0% 0% 0%	定期考 口頭詞 各種発	-	40% 30% 30%	口頭討 各種発	間 表・まとめ	30% 70%		

				令和 6	年度(2024年度) 年間授業計画表							
当	学年	3	コース	特進 S (理系)	選択形態	必修	科目	国語表現	単位	2		
学習	習目標	や学校推薦型 書けるようだ		∵きるような∑ ∵る。	文章能力を身に	こ付けさせる。		自己推薦書やた意見や考えを				
使用	教科書	国語表現(カ	大修館書店)	副教材	論理エンジン OS4・5、朝日新聞時事ワークシート 予定時間数 70							
					単元と	上内容			•			
1 :	学期	オリエンテー	ーション									
		語 ・小論文・作	基礎知識 ことわざ・類義		作文や小・語彙力を・600 字程・課題は身	論文を書くたる 高め,文章を 度の小論文, 近な問題など	めの基本ルー/ 書く基礎知識 作文を書くこ。 こし,構成ま	こ文章を書ける レ。構成を理称 を身に付ける。 とで、入試への で考えて書かせ 作薦書を書ける	学する。 対策とする。 る。			
2	学期	・面接試験	対策					を身に付けさせ やスライド作成				
		・小論文を言	書く		・プレゼンテーションのための話し方やスライド作成を学ぶ。 ・600 字程度の小論文を書くことで、入試への対策とする。 ・課題は身近な問題などにし、構成まで考えて書かせる。 ・論理国語と連動し、一つの課題型小論文を論理国語で論理的な読解を行い、 国語表現で小論文として書いてみる。							
		・志望理由	書・自己推薦書	萨を書く	・希望進路に応じた志望理由書・自己推薦書を書けるようになる。							
		• 社会問題	基礎知識の向上	:	・小論文や面接での社会知識問題に対応するため、朝日新聞時事ワークシートを用いて、様々な世の中の出来事を知り、自身の考えを持てるようにする。							
3 :	学期											
					評	価						
		評価の観点			評価の趣旨				評価対象			
評価の観点							1 学期:	末 2 学期末	学年末			
		74 IIII, 12 IIC			に役立てるため,漢字・語彙の理解をし ることができる。							
1		知識・技	能			,	彙の理解をし	0	0	0		
	思	知識・技		て,使用す 考えをまと て,話す・ 必要な資料		る。 りして,目的 とができてい	や場面に応じる。	0	0	0		
① ② ③			・表現力	て, 使用す 考て, 要まさい 表現すること も も も も も と も と ま る ま る ま る る る る る る る る る る る る る る	ることができ めたり深めた 聞く・書くこ を的確に探し	る。 りして, 目的 とができてい , 相手や目的	や場面に応じ る。 に応じて適切	0				

各種提出 20%	評価方法	レポート(相互評価)	40% 30% 10%	定期考査 40% 口頭試問 30% 各種発表・まとめ 30%	口頭試問 30% 各種発表・まとめ 70%
----------	------	------------	-------------------	--------------------------------------	--------------------------

				6年度(2024年度)年間授業計画表							
学年	3	コース	特選S文 系・Z文系	選択形態	特進S(選 択)特進Z (必修)	科目	古典探究	単位	3		
学習目標	・文語の決る	より(歴史的仮	る遣い、用言	言、助動詞の活用、係り結び、敬語、和歌、識別など)の再確認をする。。							
	・古典に親しる。	しむことにより	、言語文化に	種句法、重要語)を理解し、漢文の構造を再確認する。 対する関心を深め、国語を尊重する態度を育み、ものの見方や考え方を は験などでの得点力を養い、大学入試に対する実力がつくようにする。							
使用教科書	古典探究(数研出版)	副教材	体系古典文法·体系漢文(数研出版) 予定時間数 105							
	!			単元	と内容			<u>!</u>			
1学期	オリエンテー	ション									
	[古文] ・基本文法			•大学一般;	選抜を想定し、	基礎知識の総	確認をする。				
	[漢文]	語句			や句法などを作	品の中で確認	別し、解答力を認	高める。			
	語句 [古文・漢文] ・作品の読 解										
		・故事成語・寓	話)								
2学期	[古文]		•物語	・入試にもよ	く採用される作	品を通して、	読解力・解答力]を身に付け			
	・敬語と和	歌、読解問題	の演習	│ │・少し長めの文章を書き下し文にし、大意をつかめるようにする。 │・重要句法の知識を増やしていき、本文読解や解答力につなげる。							
	[漢文] ・古代の史話・漢詩・伝奇など ・句法、読解問題の演習 大学入試レベルの問題演習										
	・古代の史・句法、読	解問題の演習			も通テストレベノ 一般入試へ向い			の向上を目指	す。		
3学期	・古代の史・句法、読	解問題の演習						の向上を目指	す 。		
3学期	・古代の史・句法、読	解問題の演習		・私立大学-				の向上を目指	र् ग 。		
3学期	・古代の史・句法、読	解問題の演習		·私立大学-	一般入試へ向け			の向上を目指	す。 -		
3学期	・古代の史・句法、読	解問題の演習		·私立大学-	一般入試へ向に				す。 学年末		
3学期	・古代の史 ・句法、読 ・句法、就 大学入試レ	解問題の演習	習	・私立大学- ・私立大学- 評価の で古典品詞分	一般入試へ向に	けた応用力を配	育成する。	評価対象			
	・古代の史 ・句法、読 ・句法、就 大学入試レ	解問題の演習ベルの問題演	習 書き下し文・ できている。 古典の読解	・私立大学- 評価(や古典品詞分	一般入試へ向に 一般入試へ向に で価の趣旨 解などを正確に め、古典文法や	けた応用力を配	育成する。	評価対象 2学期末	学年末		
	・古代の史 ・句法、読 ・句法、就 大学入試レ	解問題の演習ベルの問題演	書き下し文できている。古典の読解、単語など	・私立大学ー 評価の で古典品詞分 に役立てるたどの知識を身に	一般入試へ向に 一般入試へ向に で価の趣旨 解などを正確に め、古典文法や	ナた応用力を育 ニ書くことが ら古典常	育成する。	評価対象 2学期末	学年末		
①	・古代、大学・日本の表現では、大学・日本の表現では、大学・日本の表現では、大学・日本の教育を表現である。	解問題の演習ベルの問題演	書きて の語なる 主きて の語が は 理的に からない は かん は で かん は で かん は で かん は で かん は で かん は で かん と で かん は で かん と で かん で かん	・私立大学ー ・私立大学ー 評価の や古典品詞分 に役立識を引いる。 章を読み取り りしている。 る関心を深め	一般入試へ向に で価の趣旨 解などを正確に め、古典文法や	t-た応用力を配 -書くことが - 古典常 - 方や考え	育成する。 1学期末	評価対象 2学期末 〇	学年末		
①	・古句: 大学 一	解問題の演習 ベルの問題 間題 間間 関語 関語 関語 関語 関語 関語 関語 関語 関語 の に の か ら の に の か ら の に の か ら の に の か ら の に の か ら の に の か ら の に の か ら の に の か ら の に の か ら の に の か ら の に の か ら の に の か ら の に の か ら の に の か ら の に の か ら の に の か ら の に の か ら の に の に の か ら の に の に の に の に の に の に の に の に の に の	習 書で 古識、 連を 対してい に がっと がっと がっと がっと がっと がっと がっと がっと かっと かっと かっと かっと かっと かっと かっと かっと かっと か	・私立大学・ ・私立大学・ ・私立大学・ ・私立大学・ ・本・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	一般入試へ向に 一般入試へ向に でを正確に が、古典文法や に付けている。 、自分ものの見	た応用力を配力を配力を配力を配力を配力を配力を配力を配力を配力を配力を配力を配力を配力	育成する。 1学期末 〇	評価対象 2学期末 〇	学年末〇		
②	・古句、大学学の読を表現のでは、大学学のでは、まりは、大学学のでは、大学学のは、大学学のは、大学のは、大学のは、大学のは、生が、生のいは、生のいは、生のいは、生のいは、生のいは、生のいは、生のいは、生のいは	解問題の が が 大 が 大 が 大 が で で で で で で で で で で で で で	習 書で 古識 論方 古に親 自 的め は も た い う た の 語 に り の 語 に り も た り し れ り し も し も し も し も し も し も し も し も し も し	・私立大学・ ・私立大学・ ・私立大学・ ・私立大学・ ・本・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	一般入試へ向に ・一般入試へ向に ・ををを ・でを ・でを ・でで ・でで ・でで ・でで ・でで ・でで ・で	tr. c.	育成する。 1学期末 〇 〇 〇	評価対象 2学期末 〇 〇 〇	学年末〇		
②	(代法) 大学 (一)	解問題の問題類の が度 ① 期表 が度 ① 期表 の で	習 書で 古識 論方 古に親 自 的め は も た い う た の 語 に り の 語 に り も た り し れ り し も し も し も し も し も し も し も し も し も し	・私立大学・ ・私立大学・ ・科立大学・ ・科立の大学・ ・科立の表別である。 ・科の表別である。 ・科の表別では、一本の表別である。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	一般入試へ向に 一般入試へ向に を価値の趣旨を正確に がいた。 は、古でいる。 は、古でいる。 は、自ら知識を習る。 は、自ら知識を習る。	tr. c.	育成する。 1学期末 〇 〇 〇	評価対象 2学期末 〇 〇 〇	学年末〇〇〇		

			令和 6	年度(2024 年	度) 年間授業	計画表				
学年	3	コース	S 文系 Z 文系 選抜文系	選択形態	特進 S (選択) Z・選抜 (必修)	科目	古典探究	単位	3	
学習目標	する。。 ・訓読の決 ・古典に親 え方を広げ	まり(訓点、 しむことに。 る。	. 書き下して より、言語で	用言、助動詞の活用、係り結び、敬語、和歌、識別など)の再確認を て、各種句法、重要語)を理解し、漢文の構造を再確認する。 て化に対する関心を深め、国語を尊重する態度を育み、ものの見方や考 模擬試験などでの得点力を養い、大学入試に対する実力がつくようにす						
使用教科書	古典探究 (数研出版)	副教材	体系古典文法	去・体系漢文	(数研出版)		予定時間数	1 0 5	
				単元と	△内容					
1 学期	オリエンテ-	ション								
	[古文] ・基本文法の確認、補足 [漢文]						総確認をする。 認し、解答力 ²			
	・句法、重要 [古文・漢文 ・作品の読解	ኒ]	寓話)							
2 学期	[古文] ・物語 ・敬語と和歌、読解問題の演習			・入試にもよく採用される作品を通して、読解力・解答力を身に付け ・少し長めの文章を書き下し文にし、大意をつかめるようにする。 ・重要句法の知識を増やしていき、本文読解や解答力につなげる。						
	・句法、	史話・漢詩・(読解問題の演) ベルの問題演	3	・大学入学共通テストレベルの問題演習を通じ、得点力の向上を目指す。 ・私立大学一般入試へ向けた応用力を育成する。						
3 学期										
				評	価					
	評価の観点			評価の	の趣旨			評価対象		
							1 学期末	2 学期末	学年末	
1	知識・	技能	書き下し文 ができてい	や古典品詞分類 る。	 解などを正確(――	0	0	0	
				解に役立てるため、古典文法や古典常 などの知識を身に付けている。						

2	思考力・判断力・表現力		章を読み取り、自分ものの見方や考え りしている。	0	0	0
3	主体的に学びに向かう 態度	古典に対す	る関心を深め、自ら知識を習得し古典 とする。	0	0	0
評価方法	① 知識・技能定期考査 80 %相互評価 10%		② 思考力・判断力・表現力	③ 主体的に学びに向かう態度		
			定期考査 80%	口頭試問 100%		
			各種発表・まとめ 20%			
	各種提出 1	0%				